

日本赤十字社・パレスチナ赤新月社第二期医療支援事業(レバノン)

国際医療救援部

主事 三浦 知紘

派遣地:レバノン共和国・ベイルート他

派遣期間:2023年6月~9月

事業概要

日本赤十字社(以下、日赤)は、2015年より中東支援3ヵ年計画を策定して中東地域への重点支援を実施してきました。医療支援事業(レバノン)についてはパレスチナ赤新月社レバノン支部の5病院を対象とし、現地に日赤の医師・看護師を派遣し、現地スタッフと協働しながら、それぞれの病院の医療サービスの質の向上のための活動を行う。

活動内容:救急外来へのトリアージ・カルテの導入

外傷の標準診療の導入

各種プロトコルの改定、実施

広報活動

上位目標:レバノンのパレスチナ難民およびその他の脆弱な地域住民に対する医療サ

ービスが向上すること

事業目標:2025年までにパレスチナ赤新月社レバノン支部病院の病院体制を改善し、

病院スタッフが安全・安心に医療サービスを提供でき、その質が向上かつ安

定的に維持される。

期待される結果:医療の質の標準化

新型コロナウイルス感染症対応能力の向上

多数傷病者(MCI)に対応可能な体制構築

診断能力の向上

看護実践の質の向上

事業管理要員としての活動

私が現地に派遣されていた4か月間は、サファッド病院(レバノン北部の事業地)からタル・エル・ザータル病院(レバノン南部の事業地)へ移行する時期でした。この4か月の間に日赤が行ってきた活動をどれだけサファッド病院に定着できるか、またタル・エル・ザータル病院での活動をどれだけスムーズに介入できるかのサポートを実施してきました。タル・エル・ザータル病院は10月から事業を開始しました。私は、首都ベイルートにある日赤中東オフィスでの業務と北部にある事業地への訪問を通じて、ベイルートチームの北部チームとの間の架け橋となるように努めました。

会計処理や報告書類の作成といったルーティンワークに加えて様々なことに関わりました。日赤行っているパレスチナ難民支援事業は2国間事業と呼ばれ、パレスチナ赤新月社との協定のも

と行われています。日赤の事業進捗の定期報告も事業管理要員としての大事なタスクの一つでした。パレスチナ赤新月社レバノン支部にて、この事業の責任者である Dr. Adel にプロジェクト目標を達成するためにそれぞれの活動状況の進捗報告を行いました。Dr. Adel も、サファッド病院での活動がどうなっているのかを非常に興味をもっており、毎月この報告を楽しみにしていました。



PRCS/L での Dr. Adel への進捗状況報告

看護実践の質の向上のためパレスチナ赤新月社レバノン支部を通じて二股聴診器をサファッド病院に寄贈しました。これは2023年3月に閉校になった大阪赤十字病院看護専門学校で使われていたものです。それを日本からこの病院が受け取るために「Goods Received Note」という書類を作成します。これは数量や状態が記入されており、確かに受け取ったことを確認する書類です。次にパレスチナ赤新月社レバノン支部に寄贈するための「Gift certificate」です。日赤中東首席代表とパレスチナ赤新月社レバノン支部の支部長の署名が必要です。そしてサファッド病院に届けるために「Waybill」にサファッド病院の院長が署名をします。これでサファッド病院での使用が可能になります。つまり二股聴診器の寄贈にも少なくとも3つの書類を作成しなければなりません。



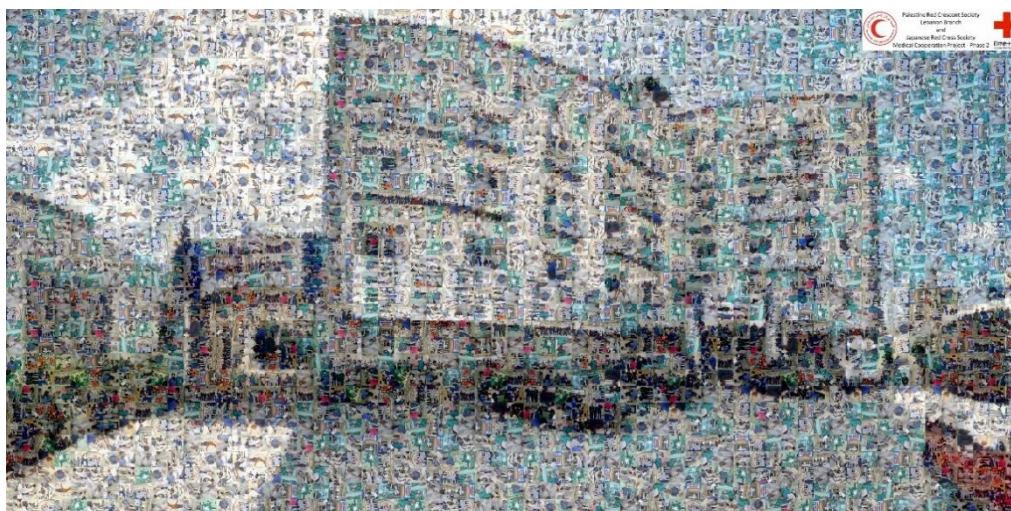
二股聴診器寄贈時のサファッド病院長の署名

私の滞在中に、本社からの出張者を含めて10名以上のスタッフが離着任しました。離着任をスムーズに行うために、セキュリティブリーフィングの手配、名刺作成、レジデンスカード作成、連盟IDカードの作成などの支援を行いました。

3月に行われた多数傷病者(MCI)トレーニングのポスターをローカルコミュニティに配布するために、ポスターデザインの修正、中東オフィス内にあるコミュニケーション部門との調整を行い、パレスチナ赤新月社レバノン支部が雇用している通訳に依頼して、難民キャンプ内のリハビリセンターや幼稚園、クリニックなどに配布しました。サファッド病院のプレゼンスを高めるための一助になったと思います。

私が離任した直後に北部にあるサファッド病院の活動期間が終了するというので、サファッド

病院にてクロージングセレモニーが行われました。その際に日赤からの贈り物としてモザイクアートを進呈しています。サファッド病院での活動中の写真を使い、私が作成し、要員宿舎近くの文具屋で額装しました。



クロージングセレモニーの際に渡されたモザイクアート

短い期間ではありましたが、今回の派遣を通じて私自身、パレスチナの抱える問題や理不尽な立場を知りました。また、現地スタッフとの交流を通じて独特のユーモアや時間感覚を体感しました。

パレスチナ難民の方々には継続的な支援が必要です。今後とも日本赤十字社の活動に、ご支援よろしくお願いします。